

河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

山登りのすすめ

最近「趣味は何ですか。」と問われることが多くなった。今では躊躇なく「山登りです。」と答えている。私と山登りとのつきあいの始まりは今からちょうど9年前、当時水資源開発公団に在籍していた時である。高校時代には皆様方のご想像に反して陸上部に所属していたが（もちろんランナーではありませんが）、山登りといえば中高時代の耐寒訓練で近くの山に登ったことと、事務所長時代に源流調査に行っただけの数少ない思い出しかなかった。

登山靴と防水防寒着だけは特にいいものがよいという同僚からの助言を受け、登山専門店ですぐ購入した。足腰などの基礎体力づくりなどする余裕も全くなく、即実践だった。そのころの思い出は谷川岳と北岳と富士山である。谷川岳は本当に苦しかった思い出だけで景色もあまり覚えていない。北岳はお花畑と言われる斜面を色とりどりに飾る高山植物の美しさと頂上から見た下界の花火の貧弱さで、特に花火はやっぱり下から見ると思った。富士山はやはりご来光のすばらしさである。

その後の赴任地富山では北アルプスを中心に結構厳しい行程の山登りが多かった。そして前任地福岡ではくじゅう連山、背振連山、宝満山、由布岳など日帰り温泉付きの贅沢な山登りが多かった。その中でも豊後富士と呼ばれる由布岳には通算5回登ったが、1月の樹氷と6月のミヤマキリシマの美しさは忘れられない。全部でどれくらいの回数登ったか数えたことはないが、年平均少なくとも見積もっても7回とすると9年で60回を超える山登りを経験したことになる。当初から愛用の靴も底がすり切れ今春張り替えたばかりである。

「山登りって何がいいの。」とか「苦労して登っていいことが何かあるの。」とかよく聞かれる。登っている途中はひたすら前に進むことしかない。特に苦しい時や多少の危険が伴う場

合はなおさらだ。その時何を考えているのかということに登ること以外何も考えていない。頭が真っ白な状態と言っても過言ではない。日頃下界で考えていることや悩んでいることをその時は全く忘れ、真っ白な頭の状態を少なからずもてるのは山登りが一番だと思っている。下界に下りて温泉に入り風呂上がりのビールでも飲めば心身ともすっきりするとともに今まで悩んでいたことが嘘のように思われることもある。

山登りのおかげで仕事の進め方を学んだこともある。山登りの目的地は基本的に頂上である。頂上に至るルートは可能不可能を考えなければ理論的には無数ある。普通は不可能なことが多いがまっすぐ頂上に向けて登る方法や時間をかけてゆっくり登る方法などいろいろある。私の経験ではそれらの中で確認できる場所にたくさんの難所があり第1案としてはあまり選択したくない道ではあるが、一つ一つの困難をていねいに解決し乗り越えていくことで結果として一番早く目的地にたどりつける道もあると思っている。人間はやはり少しでも見た目楽な道を選びがちであるが、楽な道にはやはりどこかに落とし穴が隠されているものである。何か仕事の進め方に通じるものがあると思いませんか。

本省に戻ってこれまでより山に登る機会は減りそうである。しかしたまには心身ともリフレッシュするためにも機会があれば近くの山にでも登りたいと考えている。皆様方も山登りを始めてみませんか。



国土交通省河川局河川環境課長
久保田 勝

<p>【お知らせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道開発局『河川伝統工法導入の手引き(案)』まとめる P2 ・財団ホームページ【河川ライブラリー】 P2 ・河川環境展2005開催のお知らせ P3 ・プロジェクトWETファシリテーター講習会開催のお知らせ P4 ・水辺を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会開催のお知らせ P4 <p>【報告事項1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外水害緊急調査報告 インド洋大津波スリラ 	<ul style="list-style-type: none"> ンカ被害緊急調査 P5 ・打ち水大作戦in愛・地球博！ P5 ・「身近な水環境の全国一斉調査」の集計結果について P5 ・全国森と湖の旬間 「川の音」を使った音楽を演奏 P6 <p>【報告事項2 河川環境学習関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京開催報告 P6 ・子どもの水辺推進会議開催報告 P6 ・集まれ！水夢きっず 夢実現結果について P7 	<ul style="list-style-type: none"> ・かっぱ天国大募集！応募結果について P8 ・子ども霞ヶ関見学デー プロジェクトWET実施報告 P8 ・水のエッセイコンテスト P9 ・鶴見川 川の指導者養成講座の実施 P10 ・「身近な川・水・生物を題材とした環境総合学習会」開催報告 P10 ・オリジナル缶バッジ配布中P11 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本宝くじ協会の助成事業 P11 ・平成17年度 GGG緑化事業 P11
--	--	--

【お知らせ】

北海道開発局『河川伝統工法導入の手引き(案)』まとめる [非売品]

明治以降の近代技術の導入は護岸・水制工の工法に大きな変化をもたらした。特に1960年代の高度経済成長期以降はコンクリートを用いた護岸・根固工が多く導入され、自然の素材を用いた河川伝統工法は衰退し、河川の風景も変化した。しかし昭和の終わり頃から環境に関する問題意識が高まると同時に、地域の価値、歴史が見直されてきた。

自然環境の保全・再生の観点から多自然型川づくりの考え方が導入される一方で、その一手法として河川伝統技術が注目されるようになった。平成12年に、河川審議会より「川における伝統技術の活用はいかにあるべきか」という諮問に対する答申がなされ、生活・文化を含めた河川伝統技術は決して古い技術ではなく、常に将来的な需要を潜在させている技術であることから、積極的に技術の保全を推進し、長期的観点から将来に向けた活用を図っていくことが重要であると言う提言がなされている。(中略)

しかし、近代工法に携わってきた技術者が伝統工法の機能を把握した上で、これを適切に導入することは容易なことではない。特に、河川伝統工法は「見直し」の技術と呼ばれるように、強度の不足する自然の素材を工夫して加工し、組み合わせ、機能を発揮させるために、試行錯誤を重ねて、経験的に発展してきたものである。そのため、河川伝統工法を適切に導入するためには、個々の河川の個性を把握すると同時に、河川伝統工法の有する機能を適切に把握することが必要である。

このような背景を踏まえて、「河川伝統工法ガイドライン検討会」が設立され、河川伝統工法を導入しようとする技術者が、個々の河川の特성에応じて、適切に河川伝統工法を選定し、これを導入するため

の手引きの作成を目指した。本書は河川伝統工法の機能について概説するとともに、昭和60(1985)年以降に導入された河川伝統工法の導入後状況調査結果などを踏まえ、導入に際しての基本的考え方、調査・設計の方針などについて、平成13年～15年度に行われた「河川伝統工法ガイドライン検討会」による審議を踏まえてとりまとめたものである。(“はじめに”より抜粋)

〈本書の問い合わせ先〉

河川伝統工法ガイドライン検討会事務局
(財)河川環境管理財団 北海道事務所
〒060-0061 札幌市中央区南1条西7丁目
16-2 岩倉ビル4F
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953



なお、本書は【河川砂防工事における木材活用工法ガイドブック(案)】編著(財)河川環境管理財団、発行者(株)山海堂、定価6,090円と合わせて活用されたい。

(担当：北海道事務所、企画調整部)

財団ホームページ【河川ライブラリー】 (研究成果報告書のPDFファイル化)

河川環境総合研究所の研究所報告及び研究所資料、河川美化緑化調査研究論文のうち、電子データのあたるものはPDFファイルで掲載していますので活用して下さい。

〔研究所報告第8号〕

- ・網走湖におけるアオコ発生要因の解析について
大場昭, 松澤震介, 久保添恭之
- ・ウトナイ湖の湖底堆積速度検討
川人茂二, 松澤震介, 大西明夫
- ・山王川における植生浄化の長期実験結果
佐藤和明, 岸田弘之, 千葉知由, 田中成男
- ・霞ヶ浦における湖岸植生回復の検討について
山本晃一, 戸谷英雄, 福田健一, 坂口喜久二
- ・淀川の生物環境の回復・保全に関する現地実験
川野育夫, 中西史尚, 辻山正甫
- ・環境型コンクリートブロックの生物生息環境に対する機能と効果
辻山正甫, 和泉征仁, 石田孝之, 田中義人

- ・河道の質的安全性評価手法に関する研究
山本晃一, 戸谷英雄, 高島和夫, 古川弘和
- ・子どもの水辺復活のための課題と新たな取り組みについて 小川信次
- ・地域との連携の展開—木曾三川下流域における交流会議の意義と課題—
三日市吉朗, 高垣美好, 加藤真雄, 加藤俊夫

〔研究所報告第9号〕

- ・閉鎖性河口域茨戸川の水質機構特性と水環境保全策
吉岡紘治, 工藤喬, 斎藤聖喜, 加藤善盛, 永友功一
- ・鶴見川の新しい水質環境保全策について 佐藤和明, 岸田弘之, 渡辺拓
- ・河川流域の整備と河川水理環境の変化に関する研究
山口甲, 吉岡紘治, 千葉則夫, 稲葉行則, 永松宏
- ・中小河川における大規模災害復旧計画の課題と対応
山本晃一, 赤羽忠志, 和田健一
- ・河川の土砂環境の健全化をめざした対応について
山本晃一, 赤羽忠志, 渡口正史
- ・大規模河道網におけるダムを持つ洪水水位低減効果に関する研究
山田正, 戸谷英雄
- ・駿河湾沿岸域における漂着物の特性について 高垣美好, 村上宗隆

〔研究所報告第10号〕

- ・汽水域における河川環境管理に関する研究
山本晃一, 岸田弘之, □ 義光, 大野幸正
- ・鶴見川水質浄化実験におけるNH4-Nの除去性能と都市河川への適用に関する研究
佐藤和明, 岸田弘之, 渡辺拓
- ・浄化導水施設の運用条件に関する調査研究 小林豊, 新清晃
- ・個体群存続可能性分析 (PVA) による絶滅危惧植物へのミティゲーションの評価
戸谷英雄, 谷村大三郎, 石橋祥宏, 宮脇成生
- ・淀川の流況・位況変動とコイ・フナの生態行動に関する調査
中西史尚, 辻山正甫
- ・河川伝統工法導入の考え方 山口甲, 山本晃一, 金子雅美, 小本智幸
- ・河川・砂防分野における木材活用工法採用手法に関する研究
山本晃一, 高垣美好, 加藤俊夫
- ・河川環境教育の活性化のための支援方策検討
山本雅史, 吉野英夫, 山田浩次, 佐藤聖介

〔研究所資料〕

- ・第4号 世界水フォーラムとライン川のほとり、オランダの風土
—持続可能な河川流域管理への道のり—
- ・第6号 気候の違いは河道特性の内的構造を変えるか
—長江・アプレ川・カムチャッカ川の河道特性調査—
- ・第7号 北欧河川環境調査報告書
- ・第8号 流域管理に関する米国調査報告書
- ・第10号 カリフォルニア州における防災対策関連調査
—危機管理及び防災体制における行政と市民の関わり—
- ・第11号 米国陸軍工兵隊「河川水理学」エンジニアリングマニュアル
調査報告書
- ・第12号 プロジェクトWET国際会議及び米国における水辺の整備や
利用等に関する調査報告書
- ・第14号 ドナウ・ライン川水系の流域管理と自然再生
- ・第15号 多摩川下流の水制の配置構造と技術史上の意義
- ・第16号 流量変動と流送土砂量の変化が沖積河川生態系に及ぼす影響
とその緩和技術

〔河川美化緑化調査研究論文〕

- ・広瀬川全域の動植物等の分布調査と地質・水質等に関する調査 およびその
成果の流域全小中学校への環境教育教材としての還元に関する研究
宮城教育大学 伊沢敏生
- ・極低頻度大出水後の中小河川における近自然工法の適用の検討
～那珂川支川の余笹川の場合～ 宇都宮大学 須賀堯三
- ・ダム周辺域の自然回復 北海道大学 前川光司
- ・カワゴケソウ科の適応進化と保全に関する基礎研究
東京大学 加藤雅啓
- ・処理水を利用した河川水質、水量、景観改善の効果とLCA評価
関西大学 和田安彦
- ・河川改修工事が生態系に及ぼす影響と水辺空間としての評価
岩手大学 相澤治郎

- ・河川・湖沼の浚渫汚泥及び製紙スラッジを利用した土壤還元型育苗ポ
ットの開発 と植栽培土としての利用に関する研究
高知大学 福元康文
- ・「ものがたり」共有型の水辺生態系保全・活用がもたらす効果とその
実践プロセス
～渡り性水鳥の生息地を例として～ 滋賀県立大学 近藤隆二郎
(担当：企画調整部)

河川環境展2005開催のお知らせ



河川を軸として湖沼までも含めた健全な水資源の確保のための水循環型ネットワークと河川環境に関わる全ての製品・技術・情報・サービス等を一堂に展示し、健康で豊かな生活環境と美しい自然の調和した安全で個性を育む活力ある社会づくりに寄与することを目的として、河川環境展2005が千葉県千葉市の日本コンベンションセンター（幕張メッセ）で開催されます。

河川環境管理財団ではブースでの展示の他、会場内の「環境教育ミュージアム」で小中学生を対象としたプロジェクトWETのアクティビティを実施します。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

会期：2005年11月29日(火)～12月2日(金) 午前10時～午後5時(最終日のみ午後4時まで)
会場：日本コンベンションセンター(幕張メッセ)国際展示場4ホール
主催：河川環境展実行委員会
委員長 金沢大学教授/東京大学名誉教授 玉井 信行
副委員長 横浜国立大学名誉教授 奥田 重俊
委員 社団法人日本河川協会会長 椎貝 博美
社団法人全国防災協会会長 陣内 孝雄
財団法人リバーフロント整備センター理事長 竹村公太郎
財団法人河川環境管理財団理事長 鈴木藤一郎
財団法人日本生態系協会会長 池谷 奉文
財団法人日本グランドワーク協会理事長 辻井 達一
特定非営利活動法人日本ビオトープ協会会長 西川 勝
株式会社環境新聞社社長 波田 幸夫
事務局 国際コンベンション株式会社社長 松添 茂夫
同時開催：河川環境展2005併催シンポジウム

主催 河川環境展実行委員会
ウエステック2005(廃棄物処理・再資源化展)
主催 ウエステック実行委員会
第6回農林水産環境展
主催 農林水産環境展実行委員会
IPEX2005
主催 IPEX実行委員会
(11月30日～12月2日開催)

(担当：研究第1部)

プロジェクトWETファシリテーター 講習会開催のお知らせ



H17. 1. 22-23ファシリテーター講習会(大阪)

2005(平成17)年度 水辺を活かした環境学習・体験学習 に関する全国事例研修会 開催のお知らせ

「子どもの水辺サポートセンター」では、子どもたちの水辺での学習や自然体験活動を支えるために、地域の方々、教育関係者、河川管理者等による活動を支援しています。その一環として、小・中・高など各学校において総合的な学習の時間に実施されている事例を中心とした、「水辺を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会」を開催して、今回第4回目を行うこととなりました。

研修会においては、総合学習での取り組み事例等について発表を行うとともに、意見交換を行う場を設けたいと考えています。この研修会を通して、日頃感じている問題点や疑問点の解決策を見つけただけであればと考えています。

ご多忙の時期かと思いますが、多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

- 開催日時:平成18年1月27日(金)10:00~17:00
- 会場:砂防会館 別館1階大会議室 淀信濃
住所:〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5
電話:03-3261-8386(代表)
最寄駅:地下鉄永田町駅(各線4番出口徒歩1分)

■定員:250名(定員になり次第締め切らせていただきます)

■参加費:無料

■参加対象:小・中・高など各学校の先生および広く水辺で活動されている皆様

■主催:財団法人 河川環境管理財団
子どもの水辺サポートセンター

■後援(予定):文部科学省、国土交通省、環境省(予定)

■プログラム:未定

【問合せ先】

子どもの水辺サポートセンター 矢野克己・菅原一成
TEL. 03-5847-8303 FAX. 03-5847-8309
(担当:子どもの水辺サポートセンター)



プロジェクトWETファシリテーター講習会は、現在までに3回開催され、ファシリテーター(エデュケーターを養成する者)が72名、エデュケーター(子どもたちを直接指導する者)が約1,000名となっています。

プロジェクトWETのさらなる普及・啓発をおこなうために、既にエデュケーター資格を取得されている方を対象とした、ファシリテーター講習会を下記のとおり開催することとしましたのでお知らせします。

■開催日時

平成17年12月3日(土) 10:00~18:00
4日(日) 9:00~15:00 ※時間については予定

■開催場所

財団法人 河川環境管理財団 第1、第2会議室(3F)
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋 小伝馬町ビル
電話:03-5847-8303 FAX:03-5847-8309

■講師

プロジェクトWET JAPANコーディネーター 山本 雅史

■定員

20名程度 (参加申込者の活動状況、地域性等を考慮して選考いたします)

■締切

平成17年11月10日(木)必着
参加申込書に必要事項を記入の上、メールまたはFAXにて申込下さい。
※参加申込書については、プロジェクトWETのHPからダウンロードできます。

■参加費用

2000円 (お昼代1000円×2)
※旅費・宿泊費は各自での負担となります
詳しくは「プロジェクトWET JAPAN」ホームページをご覧ください。
<http://www.mizube-support-center.org/project-wet/index.htm>

(担当:研究第1部 及び
子どもの水辺サポートセンター)



【報告事項1】

平成16年度海外水害緊急調査報告 (インド洋大津波スリランカ被害緊急調査)

河川整備基金の基金事業では、毎年土木学会との連携により、わが国の河川事業などに役立てることを目的として「海外水害緊急調査」を実施しています。

財団ニュースNo.21.でお知らせしたとおり、平成16年度は、土木学会の水工学委員会と海岸工学委員会に委託し、平成16年12月に発生したスマトラ沖地震津波(インド洋大津波)によるスリランカ国内の津波の河川遡上状況、橋梁施設や海岸構造物などの被害調査を実施致しました。

土木学会から報告書が提出されましたのでお知らせします。

報告書は土木学会水工学委員会のホームページから見るができます。

http://donko.civil.tohoku.ac.jp/sri_tsunami/report/main.html

また、10月27～28日に東京都内砂防会館で開催された「第12回河川整備基金助成事業成果発表会」の場で、調査団長の田中仁東北大学教授から調査報告が行われました。(担当:研究第1部)

打ち水大作戦 in 愛・地球博!



打ち水大作戦は、ヒートアイランド現象の抑制(地球の温度を2℃下げよう!)や地域のつながりの再確認などをテーマに、水環境問題に関する啓発活動として、三年前に東京で始まりました。この活動が全国に広がり、推定で昨年は500万人、今年は1,000万人が参加しています。名古屋事務所では昨年からは東海地区の打ち水大作戦事務局を担当しています。

今年は、約2,200万人が訪れた愛・地球博の会場において、愛・地球広場で7月27日と8月30日の2回、モリゾーキッコロメッセホールで8月18日に1回、計

3回の打ち水大作戦を実施しました。

愛・地球広場での打ち水には、打ち水大作戦東京本部から尾田作戦本部長、愛・地球博総合プロデューサーのマリ・クリスティーヌさんも参加し、大人は桶で打ち水を楽しみ、子供たちは水鉄砲で歓声を上げ、打ち水会場全体で楽しく盛り上がり、気温も1.5℃程度下がりました。

7月27日は台風一過快晴のもと約1,500人、8月30日は今にも天の打ち水が始まろうとしている空模様のなか約2,500人の老若男女の参加で打ち水大作戦を実施し、水の大切さなどをアピールしました。会場でのアンケート結果は「これからも続ける」との声がほとんどでした。

打ち水大作戦「水を撒く」だけでなく、今後、さまざまな形で水環境に関する啓発を行っていく予定です。(担当:名古屋事務所)

第2回「身近な水環境の全国一斉調査」 の集計結果について



東京都日野市 浅川



東京都日野市 浅川

財団ニュースNo.21号にて紹介した、去る6月5日(日)を中心として実施された、第2回「身近な水環境の全国一斉調査」の参加団体数等の集計結果がまとまりました。

第2回全国一斉調査においては、47都道府県全てで調査が実施され、文字通りの「全国一斉調査」となったことが大きな成果であります。さらに、屋久島や小笠原、西表島などの離島でも実施されました。第2回全国一斉調査の参加団体及び調査地点数は、

参加団体:1,000団体 【参考:第1回 531団体】

調査地点数:5,018地点 【参考:第1回 2,545地点】

となり、参加団体数、調査地点数ともに、第1回全国一斉調査の約2倍となりました。

今年度末を目途に、全国の調査結果を地図上に示した「水環境マップ」を作成し、全国の調査参加団体等と情報の共有化を図る予定です。

今後も全国一斉調査の継続により水環境の保全などに関する市民の関心が高まり、地域の河川を中心とした活動に発展するなど、その展開が期待されます。

(担当:研究第1部 環境教育班)

全国森と湖の旬間 「川の音」を使った音楽を演奏

本年7月、高知県内の早明浦ダムで開催された全国森と湖の旬間イベント「さめうら湖フェスティバル」において、編鐘演奏による環境音楽会「いのちの吉野川（演奏：長谷川有機子さん）」が開催され、その中で吉野川の「川の音」がBGMとして用いられました。この「川の音」は、本年6月上旬に、早明浦ダム周辺の吉野川本川及び支川において、流水の音を川の聴診器（水中マイク）により録音されたものです。

「川の音」は音楽全体に安心感、心地よさを与えており、河川環境学習を推進するうえで、子どもの感性に働きかけ、水、川への関心を高めるものとして非常に効果的であると実感できました。また今後、作曲家の小久保隆先生によるシンセサイザーを用いたイメージ音楽も作成される予定となっています。

1. 開催日時：平成17年7月31日（日）
2. 開催場所：早明浦ダム堤体下流の高水敷
3. 開催内容：長谷川有機子さん及び助手1名による、編鐘を用いた環境音楽会（約30分）
（BGMとして吉野川本川及び支川（早明浦ダム周辺）で録音された川の音を使用）

（担当；研究第1部 環境教育班）



環境音楽会（左が長谷川さん）

【報告事項2 河川環境学習関係】

世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京開催報告

さる平成17年9月23日～25日の3日間、東京都渋谷区こどもの城他で世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京が開催されました。フォーラムには中学生・高校生の参加者53名と大学生を中心としたファシリテーター9名ほか、アドバイザー、実行委員及び事務局を含め、総勢約130名が参加しました。



メキシコ候補者の発表

フォーラムは8つの分科会で構成され、水と災害、水と自然環境、水と衛生、生活や産業に必要な水、水の歴史・文化、を主要なテーマとして、中学生・高校生の中で活発に議論が展開されました。

さらに、今回のフォーラムに参加した中学生・高校生の中から、次回の第4回世界水フォーラム（2006.3メキシコ）に参加する候補者の投票が行われ、17名の候補者が選出されました。

今後、第4回世界水フォーラムに向けて、数回の勉強会を開催し、候補者17名の中から数名が第4回世界水フォーラムに派遣される予定です。

実施日：2005年9月23日～25日

実施場所：東京都渋谷区 こどもの城 ほか

主催：世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京 実行委員会

共催：（財）河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、NPO法人自然体験

活動推進協議会、NPO法人全国水環境交流会、川に学ぶ体験活動協議会

（担当：研究第1部 及び

子どもの水辺サポートセンター）

第7回 子どもの水辺推進会議開催報告

第7回「子どもの水辺推進会議」が平成17年6月29日（水）に開催されました。

「子どもの水辺推進会議」は「子どもの水辺」再発見プロジェクトを推進する文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、子どもの水辺サポートセンターで構成され、「子どもの水辺」登録箇所での活動に関する施策などについて情報交換や意見交換を行い、水辺での体験活動への積極的な推進に努めるものです。

以下会議の概要についてご報告します。

1. 日 時：平成17年6月29日（水）16～17時
2. 場 所：河川環境管理財団 会議室
3. 出席団体：文部科学省、国土交通省、環境省
農林水産省、子どもの水辺サポートセンター

4. 議事

- (1) 子ども達を対象とした環境学習や体験活動の推進に関する各省の取り組みについて（各省からの報告）
- (2) 子どもの水辺サポートセンターからの報告
 - ・子どもの水辺サポートセンター 平成16年度 活動状況報告
 - ・子どもの水辺サポートセンター 平成17年度 事業計画
 - ・子どもの水辺ブロック会議 から都道府県「子どもの水辺連絡会」への移行について
 - ・世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京の開催について
- (3) 「子どもの水辺」再発見プロジェクトの今後のあり方について（意見交換）
 - ・「子どもの水辺連絡会」の設置について
 - ・登録件数の増加方策及び登録箇所の活性化について
 - ・子どもの水辺サポートセンターの今後のあり方について

5. 主な議事内容

- (1) 子ども達を対象とした環境学習や体験活動の推進に関する各省の取り組みについて
 - ・「省庁連携子ども体験型環境学習推進事業」について、今後は「省庁連携」という特色の他に新たなアイデアのもとに進めていきたい（文部科学省）
 - ・「子どもの水辺」の枠組みで、農林水産省と連携を再構築していきたい（国土交通省）
 - ・エコクラブの会員数が8万3000人を突破した。今年10年目を迎える転換期である（環境省）
 - ・家庭における環境教育の推進を狙いとして、「我が家の環境大臣事業」という制度を創設し（環境省）
 - ・地元の要望に、より柔軟に対応できるように「元気な地域づくり交付金」を創設した。（農林水産省）
- (2) 「子どもの水辺」再発見プロジェクトの今後のあり方について
 - ・都道府県別の「子どもの水辺連絡会」が立ち上がったのはいいものの、活動していない県もあるので どうフォローしていくかが課題である。
 - ・エコクラブは市町村が力を入れている。県にもメリットがあるので県も協力して動いてくれている。
 - ・「子どもの水辺」の登録数は増えたが、どう進めていくかが課題である。
 - ・学校としてはやらなければならないことが多すぎるため、なんらかのメリットがないと学校を巻き込むのは難しい。民間団体を巻き込んでいくような仕組みが必要である。
 - ・水辺の安全面での指導者をいかに充実させるかが課題である。
 - ・授業時間数確保の問題もあるので、授業単位の中うまく水辺の体験活動を組み込んだ方が先生としてはやりやすいと思われる。
 - ・子どもの水辺サポートセンターの今後のあり方については、「総合情報コーディネーター」としての機能の充実を図るため、適宜各省からの情報提供をお願いしたい。

（担当：子どもの水辺サポートセンター）



第7回子どもの水辺推進会議

第3回 集まれ！水夢きっず 夢実現結果について

「集まれ！水夢きっず」とは、小中学校の子どもたちが水辺でやってみたいこと【夢部門】、先生や市民団体等の方々が子どもたちにさせてみたいこと【企画部門】を募集し、大賞である「水夢きっず賞」に相当する優秀なアイデア（夢）について、子どもの水辺サポートセンターが、その夢の実現のお手伝いを行うものです。

今回、第3回目となる「集まれ！水夢きっず」（募集期間：平成17年3月中旬～6月20日）において、107件もの応募があったなかから、みごと「水夢きっず賞」を受賞した下記の2つの夢について、当センターでその夢の実現（支援）を行いましたので報告します。

1. 企画部門（大人）

新潟県燕市こども体験活動支援センター・岡部祐一氏の『身近な地域の自然を見なおそう。楽しもう！！（内容：川下りイベントを実施し、今まで困難であった舟遊びを恒例事業としたい）』が「水夢きっず賞」を受賞し、平成17年8月27日（土）に子ども・保護者等約300人以上が参加してEボート等による川下りを実施しました。

参加者からは「中ノロ川に入ったのは初めて」、「初めての川下りでとても楽しかった」、「川の中からは見える風景が違い、感動した」といった声が口々に上がっていました。



授賞式の様子(左が受賞者の岡部氏)



Eボートによる川下りの様子

受賞者の岡部氏は、「この川下りを機会として、今まで困難であった舟遊びを恒例事業とし、数年後には自作カヌー・イカダ等のレースの実施や、子どもが安全に遊べる水辺の実現を目指して行きたい」と力強く語っておられました。

2. 夢部門（子ども）

厚木市立依知中学校2年田所玲奈さん、厚木市立依知南小学校3年田所夕里亜さんの『徒渡りに挑戦だ（内容：相模川を歩いて渡りたい）』が「水夢きっず賞」を受賞し、平成17年8月30日（火）に相模川で保護者が見守る中、友達と一緒に川渡り体

験を実施しました。

ライフジャケット等の着用方法、川での救助方法などについて、レクチャーを受けた後、川に入ると、想像以上の流れの強さに驚いていました。しかし全員でスクラムを組んで、流れに耐えながら川を渡りきると、「流れが強かったけどみんなと一緒になので渡れた」、「初めて川に入ったけど、こんなに楽しいとは思っていなかった」といった声が上がりました。



授賞式の様子(左が受賞者の田所夕里亜さん)



渡河の様子

昔は渡しがあったと聞きます。今、橋を使わずに川の向こうに渡ることが出来るのか、渡れるなら渡ってみたい。」という夢を、相模川「厚木の渡し」跡付近で実現させて達成感でいっぱいの様子でした。

子どもの水辺サポートセンターでは今後も各種事業を展開し、引き続きこういった水辺での体験活動・環境学習を支援していきたいと考えています。

(担当:子どもの水辺サポートセンター)

平成17年度 かつば天国大募集！ 応募結果について

財団ニュース (No. 21) でお知らせしたとおり、平成17年4月下旬から締め切りを3回に分けて募集していた「平成17年度 かつば天国大募集！」については、9月30日に今年度最後となる第3回目の募集を締め切ったところ、応募総数は計69件(写真総数173枚)となり、昨年度の30件(写真総数69枚)を大きく上回る結果となりました。

応募いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

今後、水辺で子どもたちが元気いっぱい遊んでいる写真とその場所の情報を、より多くの人にPRしていきます。

1. 募集内容

- (1) 河川や沼・池等の水辺で子どもが日常遊んでいる状況の写真
- (2) 場所の情報(〇〇県〇〇市〇〇地先の〇〇川)及び一言コメント(例:遊び方、いつも遊んでいる人数、水の状態など)

2. 結果概要

第1回: 募集期間	平成17年4月末～平成17年6月30日
: 応募件数	11件(応募人数 10人、写真総数 32枚)
第2回: 募集期間	平成17年7月1日～平成17年8月31日
: 応募件数	27件(応募人数 18人、写真総数 49枚)
第3回: 募集期間	平成17年9月1日～平成17年9月30日
: 応募件数	31件(応募人数 21人、写真総数 92枚)
平成17年度応募総数	69件(写真総数 173枚)

※子どもの水辺サポートセンターホームページに応募写真のいくつかを掲載しています。詳細は下記ページをご覧ください。

http://www.mizube-support-center.org/project/2005/pro2005_01_2.htm

(担当:子どもの水辺サポートセンター)



多摩川河川敷(東京都狛江市)



埼玉県飯能市の入間川



高知県吾川郡いの町を流れる仁淀川

平成17年度 子ども霞ヶ関見学デー プロジェクトWET実施報告

「平成17年度子ども霞ヶ関見学デー」が8月24日(水)、25日(木)に実施されました。

これは、夏休み中の子どもたちに各府省庁を見学してもらい、楽しみながら行政について理解を深めて

らうことを目的として企画されたものです。各府省庁ごとの特色を生かし、様々なプログラムが実施されました。

その内、国土交通省河川局が実施する「みんなで見つけよう。川や水のひみつ」コースでは、子どもの水辺サポートセンターが水に関する環境教育プログラム「プロジェクトWET」を実施致しましたのでご紹介いたします。



1) 日 時：平成17年8月24日（水）、25日（木）
10:30～11:30、13:30～14:30、15:00～16:00の
1日3回（2日で6回）

2) 場 所：国土交通省（3号館）10F共用大会議室

3) 参加者：小・中学生67名（事前応募）

4) プロジェクトWETとは：

このプログラムは、ただ単に知識を教えるのではなく、子どもたちに行動させながら、水について様々なことを考えさせるのが特徴です。集まった67名の小・中学生たちに、水に関するいろいろなアクティビティ（活動）を楽しみながら体験し、学習してもらいました。

5) 実施した主なアクティビティ

●ブループラネット

地球の表面積の約7割が「水」であることを、地球儀型のビーチボールを回して、実証しました。

●驚異の旅

地球にはどこに水が存在し、どのように移動するでしょう？

水の行方を決めるサイコロを転がして、子どもたちに水と一緒になったつもりで旅にでかけてもらいました。

●水のオリンピック

水面にいくつかクリップを浮かべることができるか、一円玉の上にくっつき水滴を乗せることができるか競争しました。その過程で、水の凝集、表面張力など水のひみつを知ってもらいました。



子どもたちからは、「一円玉にあんなに水を乗せることができるなんて」といった驚きの声や「水について楽しく知ることができた」といった感想がありました。

（担当：研究第1部及び

子どもの水辺サポートセンター）

【プロジェクトWETの詳細につきましては下記ホームページをご覧ください】 → <http://www.kasen.or.jp/wet/>

「水のエッセイコンテスト」 たくさんのご応募ありがとうございました！

次世代を担う高校生に「水がもたらす恵みの大きさ、水の大切さを考えてもらい、水に対して深い思いを持ち続けてほしい」との願いから、平成5年に始まった「水のエッセイコンテスト」は、全国高等学校国語教育研究連合会のご後援のもと、今年で13回目を迎えました。

9月20日に募集を締め切り、本年度も全国229校、計10,017名の高校生の皆さまから、数多くの「水に関する感性に溢れたエッセイ」をお寄せいただき、審査を開始しました。

ご応募いただきました皆さま、誠にありがとうございました！

■応募資格

高等学校生徒

■募集期間

2005年6月20日～9月20日

■表彰式

2005年11月20日

■主催

「水のエッセイコンテスト」

実行委員会

■問合せ先

(03) 3292-3588



また当財団から、水のエッセイコンテストの参考図書として、全国高等学校国語教育研究連合会推奨の「私たちと水」を発刊していますので、ご希望の方は当財団（担当：大西）までご連絡してください。高等学校関係者以外の方にも配布いたします。

（無料配布 ※ただし送料は各自でご負担ください）。

（担当：研究第1部 環境教育班）

鶴見川 川の指導者養成講座の実施



スローロープによる救助訓練



川流れ体験

子どもたちを水辺に誘い、安全に環境学習や体験活動を実践・普及していくためには、川の危険性を正しく理解し伝えられるスキルを身につけた指導者が不可欠です。そこで、去る平成17年8月16日、23日の2日間で、地域の市民団体の方々などを対象に鶴見川で川の指導者育成講座を開催しました。川の指導者養成講座では、川で活動する際の安全の基礎知識や実習、川でのアクティビティの実習などを実施しました。

鶴見川は水質があまり良くないことで知られていますが、実際に川に入ってみると、魚やカニがいました。たくさんの生きものが息づいていることを知り、あらためて感動させられました。

(担当：研究第1部)

平成17年度 「身近な川・水・生物を題材とした 環境総合学習会」開催報告 — 荒川で出来る環境学習 —

荒川下流河川事務所、荒川知水資料館では、「荒川下流における環境教育の推進」を目的として、教員・教育関係者を対象とした「環境教育素材（ワークシート、HP：荒川探検わくわくネット等）」を作成しています。本学習会は、「ワークシートを用いた

学習」の実技研修や「荒川における動植物の観察」など、各専門分野の先生からの講習を受講いただき、「荒川の見識を広げる」と共に「今後の環境学習への活用」としていただくことを目的として開催するもので、今年で第3回目となり、29名の先生方に参加していただきました。

■開催日時：平成17年8月9日（火）9：30～17：00

■場 所：荒川知水資料館（amoa）

■主 催：荒川知水資料館、国土交通省 荒川下流河川事務所

■参加者：29名（荒川下流域の小中学校教員及び教育関係）

■参加費：無料

■プログラム：

船上観察 9：30～12：00 船上観察及び水質検査実習

講演 13：10～13：50

演 題：「確かな学力を育成する身近な川・水・生物を活用した総合的な学習」

講 師：広島大学大学院教授 角屋重樹

実技研修 14：00～16：50 ワークシート「荒川から総合的な学習」を用いた実技研修

全体会「ワークシートの説明」（14：00～14：15）

講師：千代田区立九段小学校教諭 石井雅幸

分科会（14：30～16：50）

第1分科会「川の流れについて」

講師：新宿区立余丁町小学校主幹 手代木英明

第2分科会「荒川における動植物の観察」

講師：千代田区立九段小学校教諭 石井雅幸

講師：前府中市立第五中学校教諭 遠藤博

第3分科会「荒川の歴史構造物」

講師：八王子市立浅川小学校教諭 長崎将幸

第4分科会「荒川下流域に生息する魚類について」

講師：西東京市立保谷小学校教諭 笠原秀浩

講師：北区水辺の会 太田桐正吾

(担当：研究第1部)



オリジナル缶バッジ配布中 (子どもの水辺サポートセンター)

子どもの水辺サポートセンターでは、水辺の生き物をモチーフにしたオリジナル缶バッジを作成いたしました。「ヤマメ」、「アユ」、「オイカワ」、「テナガエビ」、「ハゼ」、「カジカガエル」の各イラストがかわいく描かれたバッジが6種類あります。

このバッジは、当センターが主催(共催、協賛など含む)する催しなどに参加してくれた子どもたちや、イベントなどに応募してくれた方々、当センターのメールマガジン用にイベント等情報を提供いただいた方、子どもの水辺サポートセンターHPの「コラム」に投稿頂いた方などに差し上げます。

また、「子どもの水辺」登録団体が水辺で活動を実施する場合には、参加される子どもの数だけ無料でバッジを差し上げます(ただし送料はご負担下さい。また、当面の間上限を100個とします)。申込方法等は子どもの水辺サポートセンターのホームページ(<http://www.mizube-support-center.org>)をご覧ください。

(担当:子どもの水辺サポートセンター)



【その他】

平成17年度 (財)日本宝くじ協会の助成事業

本年度は、約5,000万円の助成をえて「河川環境に関する児童・生徒等への普及啓発事業」として、次に紹介する3件を実施します。

・「川の水」の発行

中・高・大学生を主体に、一般の人も対象にして、河川の水環境の状況、豊かで親しみのもてる水質環境づくりの施策、水質浄化事業や住民の水質環境改善への取り組み事例の紹介等、水環境への理解と意識の向上・啓発を図ることを目的に作成し、発行するものです。

同冊子は、全国の中・高・大学、教育委員会、全国自治体、関係省庁等に配布する予定です。

・「水辺から学ぼう：活動事例集」の発行

小・中学生及びその指導者、川や水に関心のある一般の人等を対象として、川や水辺での体験学習や環境学習の参考書として活用してもらうことにより、活動の一層の推進を図り、子供たちをはじめ広く一般の人々に水や河川環境に対する理解と認識を深めてもらうことを目的に作成し、発行するものです。

同冊子は、全国の小・中・高・大学、教育委員会、全国自治体、関係省庁、市民団体等に配布の予定です。

・「Eボート」の常備

川や水辺での子ども達の体験活動や川の指導者の育成等において、水に直接触れたり、水面での活動は、室内での研修に比べ、大きな成果が得られていますが、中でも川での乗船体験があげられます。

このため、子どもの水辺サポートセンター等にEボートを常備して、必要に応じて貸し出しできるようにし、全国各地における川や水辺での体験活動の一層の推進を支援することを目的とします。

(担当:企画調整部)



平成17年度 GGG緑化事業 (Greenery by Golfer Group)

社団法人ゴルファーマの緑化促進協力会の協力金による、河川の美化・緑化事業(通称「GGG緑化事業」)は、河川区域に係るゴルフ場を利用したゴルファーマからの醸出金を原資にして、昭和60年度から行っているものです。平成17年度は、約3,000万円の予算で北海道から九州まで、全国の河川において植樹等の緑化事業を行う予定です。

(担当:企画調整部)



財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。
今後ともよろしくお願い致します。

理事長	鈴木 藤一郎
専務理事	小林 正典
常務理事	池田 東雄
常務理事	山本 雅史
理事	花見 忱
研究顧問	吉川 秀夫
研究顧問	芦田 和男
研究顧問	村本 嘉雄
研究顧問	山口 甲
研究顧問	高木 不折
研究嘱託	中島 秀雄

河川環境総合研究所長	山本 晃一
技術参与	佐藤 和明
総務部長	葛西 隆
企画調整部長(兼)	小林 正典
研究第1部長	入江 靖
研究第2部長	阿部 徹
研究第3部長	小林 豊
研究第4部長	戸谷 英雄
大阪研究所長(兼)	村本 嘉雄
研究第5部長(大阪研究部長)	持田 亮
子どもの水辺サポートセンター長(兼)	山本 雅史
東京事務所長(兼)	戸谷 英雄
北海道事務所長	金子 雅美
名古屋事務所長	間柄 仁
大阪事務所長	田村 公一

本部事務所案内図



■地下鉄日比谷線「小伝馬町駅」より徒歩0分 ■都営新宿線「岩本町駅」より徒歩約8分 ■都営新宿線「馬喰横山駅」より徒歩約7分
■JR横須賀・総武線「新日本橋駅」より徒歩約5分 ■JR横須賀・総武線「馬喰町駅」より徒歩約5分

編集
発行



財団 法人 **河川環境管理財団**

編集事務局 企画調整部 担当：堀江
E-mail: horie-t@kasen.or.jp

本部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル (2F, 3F)
<http://www.kasen.or.jp/>
E-mail: info@kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308
企画調整部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308
研究第一部 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309
研究第二部 TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309
研究第三部 TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310
研究第四部 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
子どもの水辺サポートセンター TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314
<http://www.mizube-support-center.org/>
E-mail: msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南一条西7丁目16-2 (岩倉ビル)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-3-10
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096
大阪府守口市外島町4-18 (守口フィットネスリゾート内)
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095
<http://www2.kasen.or.jp/>
E-mail: kohen@osakaj.kasen.or.jp

大阪研究所 〒540-0008
大阪市中央区大手前1-6-4 (はなビル7F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp